中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会　平成26年10月24日（金）

研究課題	富士北麓水資源の保全と活用のための水文科学的研究
研究期間	平成25年度～27年度

評価項目	平均点
研究の進捗状況	4.2
研究内容の妥当性	3.8
目的達成の可能性	4.0
期待される研究成果	4.6
研究継続の必要性	4.4
総合評点	4.2

富士北麓地域の安定的な地下水・湧水の利活用をめざして、本研究は富士北麓地域で総合的・多面的な水文科学的研究を実施している。参画研究機関がそれぞれの強みを生かして共同研究が構築されており、これまでに最新鋭のMPレーダ等を用いて、水のインプットの側面である降水量について、従来の点的把握から面的・空間的に把握できることが分かった。また重点調査区である忍野八海において、水の安定同位体比、主要イオン、微量元素等の分析を行い八海の湧水の涵養域標高や由来を推定し、従来の定説を覆すような結果が得られており、これまでの成果は大いに評価できる。

研究期間後半では、富士山は方角により地下水量や湧水量が異なっていると言われているので、他の地域と比較しながら北麓地域の水資源の特徴をつかんでほしい。また、地下水流動系のデータの防災への活用法や地下水・湧水の具体的な利活用の指針等も検討してほしい。例えば、地下水の利活用という面では、人間の必須元素（28種類）の含有率等を比較し、水質の評価づけを行うのも1案と考える。いずれにせよ、研究の最終目標である富士北麓地域の水文科学モデル作成のためにはまだ道半ばの感があり、今後、精力的かつ継続的な調査、研究活動に邁進してほしい。